3

中学校　国語科　問題用紙

（五枚のうち一）

受験番号		氏名	

（答えは、すべて解答用紙に記入すること。）

一　次の文章を読んで、あとの問一～八に答えなさい。

自分自身の読書法を見出すためには先ず多く読まなければならぬ。ア多読は イ濫読 と同じでないが、濫読は明かに多読の一つであり、そして多読は濫読から始まるのが普通である。古来読書の法について書いた人は殆どすべて濫読を戒めている。多くの本を濫りに読むことをしないで、一冊の本を繰り返して読むようにしなければならぬと教えている。それは、疑いもなく真理である。けれどもそれは、ちょうど老人が自分の過去のあやまちを振返りながら後に来る者が再び同じあやまちをしないようにと青年に対して与える教訓に似ている。かような教訓には善い意志と正しい智慧とが含まれているであろう。しかしながら老人の教訓を忠実に守るに止まるような青年は、進歩的な、ドク①ソウ 的なところの a乏 しい青年である。昔から同じ教訓が絶えず繰り返されてきたにも拘らず、人類は絶えず同じ誤謬を繰り返しているのである。例えば、恋愛の危険については古来幾度となく諭されている。けれども青年はつねにかように危険な恋愛に身を委ねることをやめないのであって、そのために身を滅す者も絶えないではないか。あやまちを為すことを恐れている者は何も掴むことができぬ。人生は冒険である。恥ずべきことは、誤謬を犯すということよりも A 自分の犯した誤謬から何物をも学び取ることができないということである。努力する限りひとはあやまつ。誤謬は人生にとって飛躍的な発展の契機ともなることができる。それ故に神もしくは自然は、老人の経験に基く多くの確かに有益な教訓が存するにも拘らず、青年が自分自身でつねに再び新たに始めるように 1仕組んでいるのである。だからといって、もちろん、先に行く者の与える教訓が後に来る者にとって決して無意味であるというのではない。そこに人生の不思議と面白さとがあるのである。読書における濫読も 2同様の関係 にある。濫読を戒めるのは大切なことである。しかしひとは濫読の危険を通じて自分の気質に ②テキ した読書法に達することができる。一冊の本を精読せよと云われても、特に自分に必要な一冊が果して何であるかは、多く読んでみなくては分らないではないか。古典を読めと云われても、すでにその古典が東西古今に亙って数多く存在し、しかも新しいものを知っていなくては古典の新しい意味を発見することも不可能であろう。読書は先ず濫読から始まるのが普通である。しかしいつまでも濫読のうちに止まっていることは好くない。真の読書家は殆どみな濫読から始めている、しかし濫読から抜け出すことのできない者は真の読書家になることができぬ。濫読はそれから脱却するための濫読であることによって意味を有するのである。

濫読に止まるなということは多読してはならぬということではない。多読家でないような読書家があるであろうか。むしろ読書家とは多読家の別名である。諺に、賢者は 3ただ一冊の本の人間 を恐れる、という。ひとは多く読まなければならぬ。読書の必要はただ一冊の本の人間にならないために、云い換えれば、一面的な人間にならないために、存在するのである。単に自分自身の時代のみでなく、また過ぎ去った時代について、単に、自分自身の国のみでなく、また世界について、全体の生活と思想について正しい見通しを得るために、多く読まなければならぬ。即ち読書において一般的教養を心掛けることが大切である。読書家とは一般的教養のために読書する人のことである。単に自分の専門に関してのみ読書する人は読書家とはいわれぬ。教養とは或る専門の知識を所有することをいうのではなく、却って、教養とはつねに一般的教養を意味している。専門家になるために読書の必要のあることは云うまでもないが、ひとは特に一般的教養のために読書しなければならぬ。そして専門家も一般的教養を有することによって自分の専門が学問の全体の世界において、また社会及び人生にとって、如何なる地位を占め、如何なる意義を有するかに就いて正しい認識を得ることができるのである。専門家も人間としての教養を具え専門家の一面性の弊に b陥 らないように読書は c勧 められるのである。そのうえ自分の専門以外の書物から専門家が自己の専門に有益な種々の d示唆 を与えられる場合も少くないであろう。かくして多読は濫読の意味においては避くべきことであるとしても ウ博読 の意味においては必要であると云わねばならぬ。

然るに濫読と博読とが区別されるようになる一つの大切な基準は、その人が専門を有するか否かということである。何等の方向もなく何等の目的もない博読は濫読にほかならぬ。一般的な読書に際しても、ひとはなお何等か専門というべきものを有しなければならぬ。一般的教養も専門によって生きてくるのであって、専門のない一般的教養はディレッタンティズムにほかならない。一般的教養と専門とは ③ハイセキ し合うものでなく、むしろ相 ④オギナ わねばならぬものである。ひとは固よりつねに一定の目的をもって読書するものではない。何か目的がなければ読書しないというのは読書における功利主義であって、かような功利主義は読書にとって有害である。目的のない読書、 B 読書のための読書というものも大切である。これによってひとは一般的教

3　中学校　国語科　問題用紙

（五枚のうち二）

受験番号		氏名	

（答えは、すべて解答用紙に記入すること。）

養に達することができる。一般的教養を得るという目的で一定の計画に従って読書することは勿論善いことではあるが、しかしかような計画は実行されないのが普通であって、むしろ若い時代から手当り次第に読んだものの結果が一般的教養になるという場合が多い。一般的教養は目的のない読書の結果である。けれども当てなしに読んだものが身に附いて真の教養となるというには他方専門的な読書が必要である。専門のない読書は中心のない読書であって、如何に多く読んでも何も読まなかったに等しいことになる。

（注）ディレッタンティズム　＝　学問や芸術を趣味として愛好すること。

（三木　清　「読書と人生」による。）

問一　傍線部①～④に相当する漢字を含むものを、次の各群のア～エの中から、それぞれ一つずつ選び、その記号を書きなさい。

①　ドクソウ
　ア　天地をソウセイする。
　イ　ピアノをエンソウする。
　ウ　ソウダイな計画を立てる。
　エ　得点をソウケイする。

②　テキした
　ア　不備な点をシテキする。
　イ　ケイテキを鳴らす。
　ウ　実力はプロにヒッテキする。
　エ　テキギ昼食をとる。

③　ハイセキ
　ア　茶碗をハイケンする。
　イ　ハイクを作る。
　ウ　可能性をハイジョする。
　エ　力士をハイギョウする。

④　オギナわねば
　ア　損害をホショウする。
　イ　ホニュウ類に分類される。
　ウ　テンポを構えて販売する。
　エ　権利をホショウする。

問二　傍線部a～dの漢字について、その読みをそれぞれ書きなさい。

問三　［A］・［B］にあてはまる最も適切な語を、次のア～カの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア　あたかも　イ　たとえ　ウ　むしろ　エ　さぞ　オ　いわば　カ　よもや

問四　1仕組んでいるのである の主部を本文中から抜き出して書きなさい。

問五　2同様の関係 とありますが、筆者はどのような点が同様の関係にあると述べていますか。何と何がどのような点において同様の関係にあるかを明らかにして、書きなさい。

問六　3ただ一冊の本の人間 とありますが、それはどのような人間であると筆者は述べていますか。五十字以内で書きなさい。

問七　ア多読、イ濫読、ウ博読 とありますが、筆者はそれぞれどのような読書の仕方であると述べていますか。書きなさい。

問八　これまでの学習指導によって、読書習慣を身に付けた生徒に対して、読書の質を高めさせるために、あなたなら、国語科の授業においてどのように読書指導を行いますか。次に示す条件1～3に従って、書きなさい。

条件1　二段落構成とし、第一段落には、あなたが国語科の授業において行う読書指導を具体的に書き、第二段落には、その指導によって、生徒の読書の質を高めさせることができると考える理由を書くこと。

条件2　指導を行う前の、読書習慣に関する生徒の状況を具体的に示すこと。

条件3　読書と一般的教養に対する筆者（三木清）の考え方を踏まえて書くこと。

3

中学校　国語科　問題用紙

（五枚のうち三）

受験番号		氏名	

（答えは、すべて解答用紙に記入すること。）

二　次の文章A～Cを読んで、あとの問一～十三に答えなさい。

A

やまと歌は、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける。世の中にある人、ことわざしげきものなれば、心に思ふことを、見a｜るもの、聞くものにつけて、言ひ出だせb｜るなり。花に鳴く鶯、水に住む蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける。力をも入れずして天地を動かし、目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、男女のなかをもやはらげ、猛き武士の心をも慰むc｜るは、歌なり。

この歌、天地の開け始まりける時より出で来にけり。しかあれども、世に伝はd｜ることは、ひさかたの天にしては下照姫に始まり、あらかねの地にしては素戔嗚尊よりぞ起こりける。ちはやぶる神世には、歌の文字も定まらず、素直にして、言の心分きがたかりけらし。人の世となりて、素戔嗚尊よりぞ、三十文字あまり一文字はよみける。かくてぞ花をめで、鳥をうらやみ、霞をあはれび、露を悲しぶ心・言葉多く、さまざまになりにける。遠き所も、出で立つ足下より始まりて年月を渡り、高き山も、麓の塵泥よりなりて天雲たなびくまで生ひ上れるごとくに、この歌もかくのごとくなるべし。

（「古今和歌集」による。）

（注）下照姫　＝　古代の神話に登場する神の名。
素戔嗚尊　＝　古代の神話に登場する神の名。

B（設問の関係で返り点・送り仮名を一部省略している。）

夫レ和歌者、託ニケ其ノ根ヲ於心地一ニ、発ニク其ノ花ヲ於詞林一ニ者也。人之在レルヤ世ニ、e不能無為ナルコト。思慮f易レ遷リ、哀楽相変ズ。感ハ生ニリ於志一ニ、詠ハ形ニハル於言一ニ。g是以、逸スル者ハ其ノ声楽シク、怨ズル者ハ其ノ吟悲シ。可ニク以チテ述レブ懐ヒヲ、可ニシ以チテ発レス憤リヲ。動カシ天地一ヲ、感ゼシメ鬼神一ヲ、化シ人倫一ヲ、和スルコトニ夫婦一ヲ、1莫レ宜ニ於和歌一。

若シ夫レ春ノ鶯之囀リニ花ノ中一ニ、秋ノ蟬之吟フニハ樹ノ上一ニ、雖レモ無シト曲折一、各発ス歌謡一ヲ。2物皆有ルハ之レ、自然之理也。然レドモ而、神ノ世七代、時質ニ人淳クシテ、情欲無ク分カルルコト、和歌未ダ作ラ。逮ビテ于素戔嗚尊ノ到ルニ出雲ノ国一ニ、始メテ有リ三十一字之詠一。今ノ反歌之作リ也。其ノ後ニ、雖モ天神之孫、海童之女一ト、莫シ不トイフ以テ和歌一ヲ通ハサ情ヲ者甲。爰ニ及ビ人ノ代一ニ、此ノ風大キニ興ル。長歌、短歌、旋頭、混本之類、雑体非ズ一ツニ。源流漸クニ繁シ。譬ヘバ猶シ払フ雲ヲ之樹ノ、生リ自リ寸苗之煙一、浮ブル天ヲ之波ノ、起コルガ於一滴之露上ヨリ。

（「古今和歌集」による。）

（注）曲折　＝　複雑な事情。
天神　＝　天の神。
海童　＝　海の神。

3

中学校　国語科　問題用紙

（五枚のうち四）

受験番号		氏名	

（答えは、すべて解答用紙に記入すること。）

C

鳥羽法皇の女房に、小大進といふ歌よみありけるが、待賢門院の御方に、御衣一重失せたりけるを負ひて、北野にこもりて祭文書きてまもられけるに、三日といふに、神水をうちこぼしたりければ、検非違使、「3これに過ぎたる失やあるべき。出で給へ。」と申しけるを、小大進泣く泣く申すやう、「公の中の私と申すはこれなり。今三日のいとまをたべ。それにしるしなくは、我を具して出で給へ。」と、うち泣きて申しければ、検非違使もあはれにおぼえて、延べたりけるほどに、小大進、

思ひ出づや無き名たつ身は憂かりきと現人神になりし昔を

とよみて、紅の薄様一重に書きて、御宝殿に押したりける夜、法皇の御夢に、よに気高くやんごとなき翁の、束帯にて御枕に立ちて、「やや。」とおどろかしまゐらせて、「我は北野右近の馬場の神にて侍り。めでたき事の侍る、御使ひ賜はりて見せ候はん。」と申し給ふとおぼしめして、4うちおどろかせ給ひて、「天神の見えさせ給へる、いかなる事あるぞ。見て参れ。」とて、「御厩の御馬に、北面のものを乗せて馳せよ。」と仰せられければ、馳せ参り見るに、小大進は雨しづくと泣きて候ひけり。御前に紅の薄様に書きたる歌を見て、これを h取りて参る ほどに、いまだ参りも着かぬに、鳥羽殿の南殿の前に、かの失せたる御衣をかづきて、先をば法師、あとをば敷島とて待賢門院の雑仕なりける者かづきて、獅子を舞ひて参りたりけるこそ、天神のあらたに歌にめでさせ給ひけると、めでたく尊く侍れ。すなはち小大進をば召しけれども、かかる問拷を負ふも、心わろきものにおぼしめすやうのあればこそとて、やがて仁和寺なる所に i こもり居て けり。

5「力をも入れずして」と「古今集」の序に書かれたるは、これらの類にや侍らん。

（「古今著聞集」による。）

（注）　負ふ　＝　嫌疑を受ける。　　北野　＝　北野天満宮。
公の中の私　＝　「公のことでも時には私情で手加減する」という意。　　まもられけり　＝　見張られていた。
現人神　＝　菅原道真を指す。右大臣であったが、讒言により左遷された。死後、怨霊になったとして畏れられ、北野天満宮に天神として祀られた。「北野右近の馬場の神」も同じ。

問一　文章Aは、「古今和歌集」の「仮名序」と呼ばれる部分です。この部分の筆者は誰ですか。その人物名を漢字で書きなさい。

問二　a る、b る、c る、d る のうち、助動詞であるものを選び、その記号を書きなさい。また、その助動詞を文法的に説明しなさい。

問三　文章Aの中から、枕詞を三つ抜き出して書きなさい。

問四　e 不能、g 是以 の本文中における読み方を、送り仮名も含めてそれぞれ現代仮名遣いで書きなさい。

問五　f 易 と同じ意味の「易」を含む熟語として最も適切なものを、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア　貿易　　イ　易者　　ウ　辟易　　エ　容易

問六　1莫レ宜二於和歌一 の書き下し文を書きなさい。

問七　2物皆有レルハ之レ、自然之理也 と同じ内容を述べているといえる部分を、文章Aの中から二十五字以内で抜き出して書きなさい。

問八　和歌の起源について、文章AとBに述べられている内容の共通点と相違点を、それぞれ書きなさい。

問九　3これに過ぎたる失やあるべき の口語訳を、「これ」の内容を明らかにして書きなさい。

問十　4うちおどろかせ給ひて に用いられている敬語をすべて取り上げ、その敬意の対象を書きなさい。

問十一　h取りて参る、i こもり居て の主語を、次のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア　鳥羽法皇　　イ　小大進　　ウ　天神　　エ　北面のもの　　オ　雑仕なりける者

問十二　5「力をも入れずして」と「古今集」の序に書かれたるは、これらの類にや侍らん とありますが、文章Cの筆者は、文章Cを例に挙げて、どのようなことを述べようとしていますか。文章Cの内容に触れて、百二十字以内で書きなさい。

3　中学校　国語科　問題用紙

（五枚のうち五）

受験番号		氏名	

（答えは、すべて解答用紙に記入すること。）

問十三　次のア・イの漢字の太線部分は、楷書の筆順として、何画目に当たりますか。その数字をそれぞれ書きなさい。

ア　発　　イ　波

三　次の問一・二に答えなさい。

問一　平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領では、国語科の目標を次のように示しています。あとの（1）・（2）の問いに答えなさい。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2)　社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

(3)　言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

（1）　言葉による見方・考え方を働かせとありますが、「言葉による見方・考え方を働かせ」るとは、生徒が学習の中で、どのようにすることですか。「……を、……に着目して……して、……を高めること。」という形式によって、書きなさい。また、「言葉による見方・考え方を働かせ」ることが、国語科において育成を目指す資質・能力を身に付けることにつながるといえるのはなぜですか。国語科の特徴を明らかにして、その理由を書きなさい。

（2）　目標の(1)～(3)に示された資質・能力の三つの柱が相互に関連し合い、一体となって働くようにするために、国語科の内容を指導する上で、留意すべきことは何ですか。「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」という語句を用いて書きなさい。

問二　平成二十年三月告示の中学校学習指導要領　国語　各学年の目標及び内容〔第2学年〕　2　内容　C　読むこと　(1)　ウには、「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」として自分の考えの形成に関する指導事項が示されています。この指導事項を踏まえて、第二学年の生徒を対象に、生徒が自分で選んだ短歌について、感想を交流するために鑑賞文を書く言語活動を設定して、自分の考えの形成に関する指導を行うこととします。その際の「読むこと」に関する評価規準を「感想を交流するために、短歌に用いられた表現について、作者の目的や意図、表現の効果などを考え、具体的な部分を取り上げ、鑑賞文を書いている。」と設定しました。これについて、あとの（1）・（2）の問いに答えなさい。

（1）　次の【短歌】は、この授業において、鑑賞文を書くために生徒が選んだものです。この短歌の鑑賞文として、「おおむね満足できる」状況（B評価）と判断できる鑑賞文を、具体的に想定して書きなさい。

【短歌】

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

（2）　作者の目的や意図、表現の効果などを考えさせる指導をする上で、あなたならどのような工夫をしますか。有効に働くと考える工夫を二つ書きなさい。また、その工夫が、作者の目的や意図、表現の効果などを考えさせる上で、有効に働くと考えるのはなぜですか。その理由をそれぞれ書きなさい。

3

中学校　国語科　解答用紙

（四枚のうち一）

受験番号	
氏名	

問題番号	解答欄												
一	問一	問二	問三	問四	問五	問六			問七			問八
	①	a	A						多読	濫読	博読	
	②	b										
	③	c	B									
	④	d										

3

中学校　国語科　解答用紙

（四枚のうち三）

受験番号	氏名

問題番号	解答欄						
二							
問十二							
問十三 ア							
問十三 イ							

3

中学校　国語科　解答用紙

（四枚のうち四）

受験番号	氏名

問題番号	解答欄
三 問一 (1) 「言葉による見方・考え方を働かせ」るとは	
三 問一 (2) 国語科において育成を目指す資質・能力を身に付けることにつながるといえる理由	
三 問二 (1) 工夫とその理由【一つ目】	
三 問二 (2) 工夫とその理由【二つ目】	